

目指す学校像	規則と秩序があり、笑顔あふれる学校・学び合い、高め合う、活力ある学校・美しく整えられ、安全で潤いのある学校		
重点目標	1 児童の実態を把握し、情報端末を活用した学習と個別最適な学びの推進 2 児童・保護者に寄り添った教育相談体制の構築と安心・安全な学校づくりの推進 3 コミュニティ・スクールとして異校種間の連携強化と地域・保護者との協働の推進 4 教職員一人ひとりが力を発揮できる環境づくりと、ワンチームで対応できる組織力の構築		

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	（8割以上）
	B	概ね達成	（6割以上）
	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実 施 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	〈現状〉 ○全国学力学習状況調査では、全国の平均値を下回っている。 ○日頃の学習では落ち着いて授業に参加し、意欲的に学習に取り組んでいる児童が多い。学校評価児童アンケート「学校の勉強は分かりやすくて楽しい」の肯定的評価は74％である。 〈課題〉 ○基礎学力の定着につながるような教師の指導力の向上、及び授業改善が課題である。 ○児童一人ひとりが自分の課題に向き合い、課題解決に向けて自ら進んで取り組めるようにすることが課題である。	・「個別最適な学び」「協働的な学び」に向けたタブレット等を活用した授業改善	①「学びのポイント（じしゃく）などを視点とした授業改善を行う。 ②オクリンクやムーブノートを活用した児童一人ひとりが活躍できる授業を実践する。 ③スタディサプリやドリルパークを活用し、個々の習熟度を確認しながら、学習できる時間を確保する。	①タブレットを活用した授業実践・研究協議等を行い、授業力の向上に取り組んだか。 ②学校評価児童アンケート「学校の勉強は分かりやすくて楽しい」の肯定的評価80％以上か。	①オクリンク等タブレットを活用した授業を3年生以上の学年で週3回以上が87％（昨年度比20％増）となり、活用が向上した。 ②学校評価児童アンケート「学校の勉強は分かりやすくて楽しい」の肯定的評価は68％（前年度比6％減）となり、目標値を達成できなかった。	B	・教員のタブレット等ICT機器の活用については、肯定的評価が82％（前年度比15％減）となった。どの教科でも活用できるように情報交換等研修体制を再構築する。 ・全教職員が学習の質的向上に取り組み、多様な活動を取り入れ、楽しい授業を実践できるようにする。	・家庭でもタブレットの活用が見られたが、導入当初より活用する回数が少なくなった。ICT活用はバランスが大切で、有効な活用につながる取組を進めてほしい。 ・タブレットを使って、何ができるようになったか、どうやって学んだか等、記録する習慣を小学校から取り組んでほしい。 ・学校評価で保護者・教職員・児童の結果に肯定的な回答が少ない項目がある。教育活動を活発化させるためには、子どもが主体的に取り組むこと、評価をくり返し行うことが大切である。改善に取り組んでほしい。	
		・個々の課題把握を徹底し、個にあった課題に取り組めるような学習活動の工夫改善	①個々の学習課題の進捗状況をタブレットや面談等を活用して的確に把握し、児童と保護者に適切にフィードバックを行うようにする。 ②学習タイムを活用し、個々の課題に取り組めるようにするとともに、課題解決の進捗状況を担任と児童が共通理解できるようにする。	①タブレットを活用し、月1回程度個々の課題の進捗状況について確認を行い、面談等での確にフィードバックしたか。 ②学習タイムを活用して児童一人ひとりが課題設定し、自己の課題解決に向けて学習に取り組むことができたか。	①学期に1回（1・2学期）の個人面談で保護者に児童の学習課題等をフィードバックすることができた。 ②週3回の「学習タイム」において、児童が自ら取り組む課題を決め、タブレット等を活用して主体的に学習する活動が定着した。5・6年生では82％（前年度比2％増）に取り組むことができた。	A	・児童の主体的な学習習慣が定着してきた。今後は家庭学習にも広げ、学力の向上につなげていく。 ・全教員による児童一人ひとりの課題把握を継続し、授業で適切に指導できるように学習活動等の工夫・改善を行う。		
2	〈現状〉 ○学校評価児童アンケート「学校が楽しい」の肯定的評価は81％、「先生が悩みを聞いているか」の肯定的評価は89％である。 ○月1回の安全点検で出てきた修繕依頼や緊急時の対応等、もれなく対応した。 〈課題〉 ○学習面や教育相談等で個々に寄り添った対応がより十分に行うことが課題である。 ○教育環境において、校内の美化に課題が見られた。	・面談シートを活用した学習課題の設定とコーチングを活用した面談の実施	①学期に1回の面談と週3回の学習タイムを活用して児童と面談を実施するとともに、学習課題や解決に向けてコーチングを取り入れた面談を実施する。 ②6月と11月に保護者と個人面談を行い、学校と家庭で児童の課題や成果等について共有し連携していく。 ③生徒指導・教育相談等で得られた情報を全教員で共通理解を図るとともに、迅速かつ組織的に対応する。	①児童一人ひとりの課題について、個人面談を通して保護者と共有するとともに、面談結果について面談シートに記録を確実に行ったか。 ②学校評価保護者アンケート「お子さんに応じたきめ細かな指導を受けている」の肯定的評価80％以上か。	①学習タイムの実施について、教員の肯定的評価が81％となった。面談シートの記録が保護者との情報共有に活かされた。 ②学校評価保護者アンケート「お子さんに応じたきめ細かな指導を受けている」の肯定的評価86％（前年度比7％増）に向上した。	B	・さまざまな課題に向き合うため、生徒指導委員会や教育相談・特別支援教育委員会等の組織を再構築する。さらに全教職員による情報共有や共通理解のもと、迅速かつ組織的対応を強化する。 ・スクールダッシュボードをより有効に活用する。	・児童の「相談」については課題がある。子どもの意見を聞くことができる場を設けてほしい。 ・「交通安全」については、喫緊の課題であるので、具体策に取り組んでほしい。 ・「マナー」については、個人のマナーは家庭で、集団生活でのマナーは学校で育てるなど連携を図ってほしい。 ・子どもたちのコミュニケーション力を高めてほしい。	
		・美しく安全な教育環境の整備	①月1回の安全点検を的確に行うとともに、点検時に上がってきた修繕等の報告について管理職や事務が早急に確認し、早期に対応する。 ②教育環境を整備と教材の充実のため全教職員による備品等の整理を行う。	①各学期末時点で、安全点検等で上がってきた修繕依頼等の未対応を0件にすることができたか。 ②学校評価「教育環境整備」に係る項目において肯定的評価80％以上か。	①修繕要望については管理職・事務職員・用務担当が連携し、未対応はなかった。 ②通学路点検等、地域と連携を図りながら、校地内外の環境整備（安全）を行った。安全対策に関する項目では肯定的評価が86％（前年度比6％増）に向上した。	A	・空き教室の整備や教材・備品等の整理を行い、美しく安全で使いやすい教育環境づくりを継続していく。		
3	〈現状〉 ○学校運営協議会において、学校・地域・保護者が連携して行う「城南フェス」の実行委員会を立ち上げた。 ○異校種間の交流で、保育園との学校図書館利用等を行うことができた。 〈課題〉 ○「あいさつ」は引き続き取り組んでさらなる向上を目指すことと、地域に学校のことをより知ってもらうことが課題である。 ○中学校など異校種間での取組を今年度も継続して実施するとともに交流する校種を増やしていくことが課題である。	・積極的な学校公開の推進	①学校ホームページの定期的な更新を行い、来校できなくても児童の学習や生活の様子を把握できるようにする。 ②学校公開週間を学期に1回設け、全学年の授業や児童の活動の様子を見られるようにする。	①学校ホームページを更新し、学校からの情報を発信することができたか。 ②学校評価「学校公開等」に係る項目において肯定的評価80％以上か。	①城南小ブログを開設し、授業や学校行事など児童の活動や学校・地域が連携した取組など発信した。 ②学校評価「学校公開」の肯定的評価87％（前年度比13％増）「学校の様子がよく分かる」の肯定的評価92％に向上した。	A	・学校ホームページの定期的な更新を継続する。 ・地域へ情報発信を広げ、教育活動について理解や協力を得られるようにする。	・子どもたちを主体とする城南小フェスの継続を望んでいる。経費面は考えていきたい。城南フェスでは、大人と子どもの接点を増やしてほしい。地域の行事・イベントへの参加にもつながる。 ・保護者に向けて、具体的に協力してほしいことは伝えてほしい。PTAの協力にもつながる。 ・あいさつは時代に合わせた対応も必要である。評価も大切にほしい。	
		・コミュニティ・スクールを核とした児童の健全育成の推進	①学校運営協議会において「あいさつ」等向上するための熟議を継続し、取組を実施する。 ②実行委員会を中心として、学校・保護者・地域が連携した「城南フェス」を実施する。	①学校評価「あいさつ」に係る項目において肯定的評価75％以上か。 ②城南フェス実施後のアンケートで満足度70％以上か。	①学校評価「あいさつ」の肯定的評価は、保護者64％（前年度比1％増）児童77％（前年度比11％減）となり、大きく改善できなかった。 ②12回の実行委員会を行い、城南フェスティバルを実施した。保護者の満足度は84％となった。	B	・児童会など児童の主体性を活かしたあいさつ運動を展開し、進んであいさつできる児童を育てる。 ・学校を会場として児童・保護者・地域が交流できる取り組みについて、成果と課題をふまえ検討していく。		
4	〈現状〉 ○エバンジェリストを中心として、ほとんどの教職員が授業でタブレットを活用できた。 ○働き方改革を推進し、ペーパーレス化による会議時間の短縮等業務の見直し等を進め、時間外勤務時間の削減を進めることができた。 〈課題〉 ○タブレットを活用し、ICTを活用した指導力の向上を図っていくことが課題である。 ○タイムマネジメント力の向上に取り組み、より働きやすい職場を構築することが課題である。	・校内研修等を活用した教職員の資質向上 ・組織的な働き方改革の推進	①学校課題研修や指導訪問、年次研修、初任者研修等を活用して、教員が学び合う機会を深化させる。 ②高学年完全教科担任制を継続し、専科教員を含めたブロック会議を週1回導入することで、児童対応や学年ブロックの行事等の業務を分担してチームで行えるようにする。 ③中・低学年でも専科教員の授業を入れることで空き時間を確保し、教材研究や事務処理の時間を設けることで働きやすい職場を推進していく。	①学校評価「教職員研修」「授業改善」において肯定的評価80％以上か。 ②全教職員の時間外勤務時間を年間360時間以内にする。	①研修主任のリーダーシップのもと、研究授業・協議会年3回（中堅・5年次・2年次研修と兼ねる）指導者を招聘した学力向上カウンセリング訪問を実施し、全教員が授業改善に取り組んだ。教員の「研修・授業改善」の肯定的評価88％だった。 ②学校行事等の実施計画の見直しを行い、教職員の業務内容を削減・効率化を進めた。得られた時間は教材研究や学級事務、休暇の取得に充てることができた。教職員一人ひとりのタイムマネジメントにより、業務を計画的に進めることができた。1月の時点で時間外在校時間300時間以内の教職員は88％以上となった。	B	・年間行事計画や実施計画を見直し、業務内容の精選・改善を行う。 ・令和7年度より家庭への配付物のペーパーレス化を実施し、業務の削減を行う。 ・業務の偏りを調整し、量的改善を進める。 ・積極的に自己研修に取り組めるよう研修会や研究発表会への参加を促す。	・働き方改革と校内研修等の勤務時間のバランスを取ることは必要であり、今後も改善に取り組んでほしい。	